

2021 年 5 月 8 日

乗木養一

5 年 A 漢字

絶 の 字 誌

P. 3	配当学年	1958 年 6 年配当。1968 年読みを 5 年で指導することに。1977 年に 5 年に移行し現在まで 5 年配当。
P. 3	使用状況	教科書での出現例は 656 位。新聞での出現例は 700 位台。
P. 4	習得状況	6 年生当初の段階で、「絶対」の読みは 8 割以上、書きは 6 割となっている。訓読みのコトバの読み書きは、かなりむずかしい。
P. 4	音訓	4 つの音訓とも小学校段階に割り振られる。指導対象候補の音訓は、国字研プリントの文例参照。「ゼツ」は、どの教科書とも 5 年の本文で提出しているが、訓読みは巻末付表のみというケースが大半。 「断つ・裁つ」とのつかいわけは、中学校段階での学習。
P. 6	字形	「糸・色」で組み立てられている。「糸」は 1 年、「色」は 2 年でまなんだ。
P. 9	字体	「絶が正しく、絶が俗字」とする言説は、あやまりである。字体の変転を追うと、むかしから「絶」が標準としてながくつかわれてきたことがわかる。
P.17	字源説	《糸を刀で切る》ことから《たちきる》意をあらわすにとらえる説が主流。ただし、「巴」の部分が諸説にわかれ、判然としない。
P.19	字義	明解である。核となる意味は《たつ・たちきる》。訓の「絶つ」があらわす。派生義の《かけはなれてすごい》との対照がポイント。
P.19	語イ	教育基本語イ・学習論理語イに「絶対」が選ばれている。名詞の「絶対」と、副詞の「絶対に」との区別と連関を意識したい。

(別ファイル「絶 語釈・文例集」)

1. 漢字表と精選案

1. 国字研精選案における「絶」の位置づけ

	1978年8月	「小学校600漢字，B 基本漢字」に選択（大久保忠利第1次私案） 第1手順：国語研調査で読み書きともに50%台以上でなかったことから選定しない。第2手順：難学習漢字として除く。第3手順：「B基本漢字」に選択。
	1978年12月	「小学校758漢字」に選択（見城慶和・関可明修正案）
	1984年4月	「小学校600漢字」に分類（小学校第1次素案）
	1987年8月	「小学校で書けるようにする漢字」に分類 （日野兎言研案をもとにした小学校第2次素案）
旧精選案	1988年8月	「小学校で書けるようにする漢字・614字」に選択（小学校第3次素案）
	2009年8月	「 A漢字 －読み書き漢字。読み書き両方の力を定着させる・608字」に分類 （2009年改訂精選案）
	2010年5月	「 A漢字 －読み書き漢字。読み書き両方の力を定着させる・608字」に分類 （2010年補正精選案）
現行精選案	2017年3月	「 A漢字 －読み書き漢字。読み書き両方の力を定着させる・608字」に分類 （2017年学習指導要領改訂に対応の精選案）

2. 漢字表

(1) 当用漢字表（1946年11月16日，1850字） 右図→

(2) 当用漢字別表（「教育漢字」1948年2月16日，881字）下図↓

糸部	系紀約納純紙級素細終組結絶給統糸(絲)絹経(經)緑綿線編 練縣総(總)績織絵(繪)続(續)
----	--

(3) 当用漢字音訓表（1948年2月16日）下図↓

絶	ゼツ たえる
---	-----------

刀巴

絶

(4) 当用漢字字体表（1949年4月28日）

(P.15, P.16 参照)

右図→ 色

絶

(5) 当用漢字改定音訓表（1973年6月18日）

ゼツ・たえる・**たやす**・**たつ**（赤字の訓を追加）

(6) 常用漢字表（1981年10月1日）↓

絶	ゼツ たえる たやす たつ	絶妙，絶食，断絶 絶える 絶やす 絶つ	⇔ 裁つ，断つ
---	------------------------	------------------------------	---------

糸部
紹紺終組結絶絞納純紙級粉素紡索紫累細紳
紹紺終組結絶絞納純紙級粉素紡索紫累細紳

3. 小学校学習指導要領の配当学年の推移

告示	実施・使用開始	学習指導要領・教科書		教育漢字数
	1947年4月	学習指導要領(試案)	[注1] なし	684
	1951年4月	小学校学習指導要領(試案)	[注2] あり	881
1958年	1961年4月	小学校学習指導要領	6年	881
1968年	1971年4月	小学校学習指導要領	[注3] *6年	996
1977年	1980年4月	小学校学習指導要領	5年	996
1989年	1992年4月	小学校学習指導要領	5年	1006
1998年	2002年4月	小学校学習指導要領	5年	1006
2008年	2011年4月	小学校学習指導要領	5年	1006
2017年	2020年4月	小学校学習指導要領	5年	1026

[注1] 1947年『文部省著作国語教科書』第6期国定読本(いいこ読本)の提出学年と教育漢字数である。

[注2] 「881字」は、義務教育期間中の指導字数である。「絶」もふくまれていた。

[注3] 「*」をつけた漢字は「すぐ下の学年で読めるようにしておく」とされた。

4. 音訓の学校段階別わりふり(2017年3月31日 文部科学省)

ゼツ(小学校), たえる(小学校), たやす(小学校), たつ(小学校)

2. 出現頻度と習得状況

1. 使用状況

教科書での出現例は656位。新聞での出現例は700位台。

漢字出現頻度表 順位対照表(Ver.1.3)

凸版(3)順位	漢字	種類	表外漢字字体表	新聞調査(朝日)	新聞調査(読売)	ウェブデータA	凸版(3)第2部
500	影	常用		348	418	501	371
501	型	常用		537	453	390	534
502	絶	常用		774	723	415	656
503	館	常用		234	358	475	235
504	眼	常用		1301	1253	951	1047

2010年常用漢字表改定の際に、文化審議会が改定作業に使った資料。審議では、一般の書物である「凸版(3)」調査を基本資料とし、他の調査を補助資料と位置づけた。

凸版(3)順位	2004年から2006年までに凸版印刷が製作した864冊分の組版データ
新聞調査(朝日)	2006年10月1日から11月30日の期間の朝日新聞の紙面データ
新聞調査(読売)	2006年10月1日から11月30日の期間の読売新聞の紙面データ
ウェブデータA	2007年2月、4月、6月のウェブサイトのデータ
凸版(3)第2部	凸版(3)調査のうち教科書のためのデータ

(2008年5月12日 文化審議会国語分科会漢字小委員会)

2. 習得状況

6年生当初の段階で、「絶対」の読みは8割以上、書きは6割となっている。訓読みのコトバの読み書きは、かなりむずかしい。

(1) 1982年 - 1984年「国立国語研究所調査」(東京都の集計)

	音訓	調査問題	1年下	到達度	1年上	2年上	4年上
読み	ゼツ	絶対	57.5	87.5	91.5	95.0	96.5
	たーえる	絶える	9.0	57.0	71.0	73.0	90.5
	たーやす	絶やす	5.0	36.0	52.0	62.5	74.0
	たーつ	命を絶つ	6.0	39.5	53.0	71.0	90.0
書き	ゼツ	約束は絶対にまもる	3.0	60.0	77.0	81.0	92.0
	たーえる	息が絶える	2.0	45.0	36.0	39.0	53.0
	たーやす	火を絶やさない	0.0	12.0	16.0	13.0	30.0
	たーつ	命を絶つ	1.0	13.0	13.0	15.0	32.0

調査実施時期：1年下(小学4年11月)，到達度(小学6年4月)，
1年上(小学6年11月)，2年上(中学1年11月)，4年上(中学3年11月)

3. 読みかた・音と訓

4つの音訓とも小学校段階に割り振られる。指導対象候補の音訓は、国字研プリントの文例参照。「ゼツ」は、どの教科書とも5年の本文で提出しているが、訓読みは巻末付表のみというケースが大半。

1. 音訓

絶	ゼツ	当 常	(名詞・ス動詞) 絶望, 絶体絶命, (副詞) 絶対に
	た - える	当 常	(自動詞) 人通りが絶える, (形容詞) 絶え間ない
	た - やす	常	(他動詞) 害虫を絶やす, えがおを絶やさない
	た - つ	常	(他動詞) 関係を絶つ, あとを絶たない

当 「当用漢字音訓表」(1948年)に収録された音訓。

常 「常用漢字表」掲載の音訓。

赤字 「国字研プリント」の文に掲出のコトバ。

2. 和語の語幹・活用語尾と【送りがなのつけかた】

た・える 【絶える】 〈自動詞ア行下一段〉 (*) 通則1 本則

たや・す 【絶やす】 〈他動詞サ行五段〉 (*) 通則2 本則

た・つ 【絶つ】 〈他動詞タ行五段〉 (*) 通則1 本則

(*) 「送り仮名の付け方」(1973年内閣告示) 本文による。

活用形一覧（赤字が辞書形）

	非過去		過去	
	肯定	否定	肯定	否定
ふつう形	絶える	絶えない	絶えた	絶えなかった
ていねい形	絶えます	絶えません	絶えました	絶えませんでした

	非過去		過去	
	肯定	否定	肯定	否定
ふつう形	絶やす	絶やさない	絶やした	絶やさなかった
ていねい形	絶やします	絶やしません	絶やしました	絶やしませんでした
可能動詞 ふつう形	絶やせる	絶やせない	絶やせた	絶やせなかった
ていねい形	絶やせます	絶やせません	絶やせました	絶やせませんでした

	非過去		過去	
	肯定	否定	肯定	否定
ふつう形	絶つ	絶たない	絶った	絶たなかった
ていねい形	絶ちます	絶ちません	絶ちました	絶ちませんでした
可能動詞 ふつう形	絶てる	絶てない	絶てた	絶てなかった
ていねい形	絶てます	絶てません	絶てました	絶てませんでした

転成語の送りかな・語釈・用例

たえ-ざる【絶えざる】連語（古風な言いかた。）

やすみなくつづく。「絶えざる努力。」

たえず【絶えず】副詞

ひっきりなしに。間断なく。いつも。つねに。「車が絶えず通っている。」

たえて【絶えず】副詞（下る打ち消しの語がくる。）

すこしも。まったく。全然。「絶えてうわさを聞かない。」「絶えて音さたがない。」

ね-だやし【根絶やし】名詞

① 根まで全部取って絶やすこと。根こそぎ。「雑草を根絶やしにする」

② 物事の根本から取り去ること。根絶すること。絶滅する。撲滅する。

「悪を根絶やしにする」

3. 同音・同訓の漢字

ゼツ	舌⑥中
た-える	耐⑤, 堪⑤, 断⑤表外訓
た-やす	
た-つ	立①, 建④, 断⑤中, 裁⑥中, 発③表外訓, 起③表外訓, 経⑤表外訓 たつ: 竜⑤, 龍表外字, 辰表外字, タツ: 達

○数字：配当学年，⑤：教育漢字外の常用漢字，中：中学校段階にわりふり，

異字同訓

たつ	絶つ	⇔	断つ	⇔	裁つ
----	----	---	----	---	----

* 「断」は5年配当，「裁」は6年配当だが，「断つ」「裁つ」ともに中学校段階にわりふられている訓。つかいわけについては，「絶 語釈・文例集」P.10 参照。

4. 小学校国語教科書における音訓の提出学年（2020 年版）

	光村	教出	東書	学図
ゼツ	5年	5年	5年	5年
たえる	5年	5年	5年	5年
たやす	5年	5年	5年	5年
たつ	5年	5年	5年	5年

赤字が本文提出の音訓

5 年教科書本文の語

〔光村図書〕絶対に言わない。
 〔教育出版〕きょうりゅう絶めつ。
 〔東京書籍〕絶景・絶える・絶つ。
 〔学校図書〕絶対にのがすな。

5 年用教科書

新出漢字として 5 年教科書本文の語を，光村と学図は「絶対」で提出している。教出は，漢字配当時期のバランスから「ぜったいに」よりあとの「絶めつ」で提出している。東書は，てびきページで「絶景・人通りが絶える・音信を絶つ」を提示している。各社とも巻末一覧表で 4 つの音訓と語例をそれぞれかかげている。

4. 書きかた・字体と字形

「糸・色」で組み立てられている。「糸」は 1 年，「色」は 2 年でまなんだ。

1. 字体



学年別漢字配当表



康熙字典



常用漢字表体



標準的な楷書

（現行字体）

現行字体の「色」の上部は，康熙字典体では「刀」であった。1946 年「当用漢字表」，1948 年「当用漢字別表」が官報に掲載されたときの活字字体は，康熙字典体だったが，1949 年「当用漢字字体表」で現行字体に変更された。（P.2 参照）

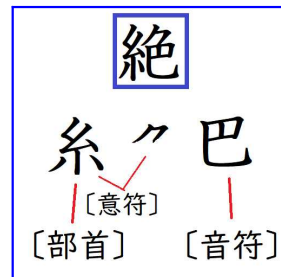
2. 部首・偏旁冠脚

（1）部首

説文解字	糸部 [ベキ部]
康熙字典	糸部 [ベキ部]
当用漢字表	糸部 [ベキ部]
長沢規矩也	糸部 [ベキ部]

長沢規矩也の部首法については，2019 年 5 月例会資料「戦後の文字改革とおすすめした〈部首〉のみなおし」を参照。

(2) 偏旁冠脚



「巴」を構成要素にするおもな漢字

巴〔ハ〕、把〔ハ〕^⑧、肥〔ヒ〕^⑤、

芭、杷、琶、邑

色〔ショク・シキ〕^②、艶〔エン〕^⑧ 2010

(2010：2010 年常用漢字表追加漢字)

〔注〕「巴」を形声音符とみない説もある。

3. 字形の構成要素

糸① 絵②

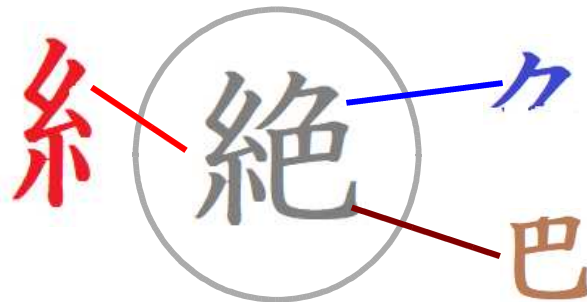
紙② 組②

細② 線②

終③ 級③

緑③ 練③

〔以下略〕



色② 魚②

急③ 負③

争④ 静④

漁④ 危⑥

色② 肥⑤

4. 類似字形

絶

紀^⑤ 紹^⑧ 犯^⑤

5. 楷書の画数と標準的な筆順，さまざまな字形

小学校学習指導要領は、「漢字の指導においては，学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること」としている。



中学校行書例

絶

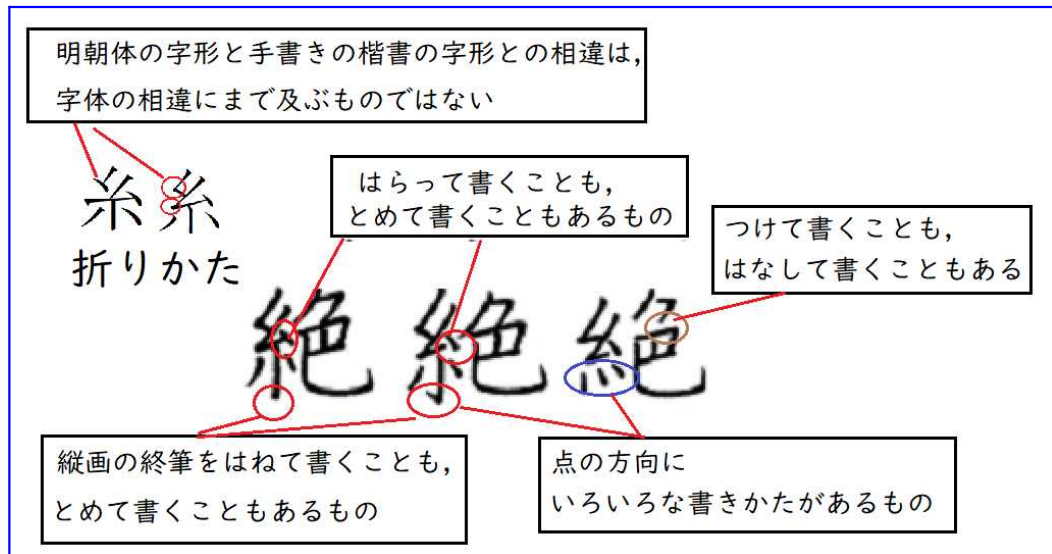
小学校硬筆例

絶

印刷文字の字形の例				
明朝体	ゴシック体	ユニバーサルデザインフォント	UD デジタル教科書体 NR	学年別漢字配当表
絶	絶	絶	絶	絶
手書き文字の字形の例				
絶 絶 絶				

『常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）』
文化審議会国語分科会（2016 年 2 月 29 日）を一部改編

6. 字体の正誤についての評価における許容例



7. 誤字例



課題 ③「色」の上部をカタカナの「ク」と書くと誤字にするケースがみられる。

⑦「つりばり」と称する「し」の終筆をはねないと誤字にするケースがみられる。「九・池・記・礼・包」なども同様の対応。

8. 口唱法

(1) 下村式

糸 [いとへん] に クをかき かぎ たて よこで たてまげはねる

(2) 自由自在式

糸 [いと] の色 [いろ] ぬり分けるなんて
絶対無理 [ぜったいむり] だ

5. 字体の変転と字源説

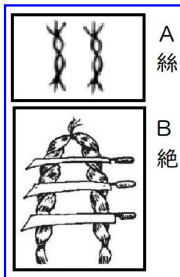
「絶が正しく、絶が俗字」とする言説は、あやまりである。字体の変転を追うと「絶」がながくつかわれてきたことがわかる。

1. 字体の変転



① 甲骨文字でもっとも早い時期のものです。(P. 10 参照)

つなげた糸のたばに切断線をくわえ《たちきる》ことをあらわしているとみられます。甲骨文字の「糸」は、左図Aのように、たばをふたつならべた形でした。楷書の「糸」がそれをうけついでいます。



この「糸」に切断線をよこぎらせたのが「絶」①です。この切断線を記号にとらえる「指事文字」説がこんにち主流です。

一方で、左図Bのように横線を「刀」ととらえ「糸+刀」の「会意文字」説とするのも一部にあります。

② 金文には「糸」が「糸」ひとつになり、右がわに「刀」(右図)をそえて《たちきる》をあらわす字体がみられます。「会意文字」です。



③ 金文にはもうひとつ「𦉰」[ゼツ]の字体が登場します。ふたつの糸たばを刀で上下にたちきることをあらわす、これも「会意文字」です。この字体は春秋戦国時代を通じて各地に登場し、④はその一例です。

⑤ 秦になると公式字体の小篆(篆書)がつくられます。「𦉰」を「糸+刀」と整理し、右の「刀」の下に「尸」とみられる字形をくわえています。この「尸」については、現状では説がわかれています。(P.14 参照)

これは⑥隸書、⑦⑧初期の楷書にうけつがれます。そして楷書の⑨以降「尸」が「巴」のかたちになります。もともと「巴」[ハ]は、《うずまき》の意味をもつべつの字です。「絶」とは意味のうえでは無関係です。

⑨は、「刀」の字形がかわり「色」のかたちになります。「色」[シヨク]は、《いろどり》などの意味がありますが、これも字形が一致するだけで、「絶」とは意味のうえで関係ありません。

楷書には⑨とともに⑩の字体も登場し、このふたつが並立していきます。

⑩は「康熙字典体」にうけつがれ、⑨は「当用漢字体」に採用され、日本の現行字体となっています。

各字体の出典

① 甲骨文 BC13 世紀

『甲骨文合集』(郭沫若・主編, 中華書局)で 2940 と番号がふられている拓本で、カメの腹の甲羅[こうら]にきざまれているなかにある。

右がその拓本画像。

読み下すとこんな文になる。

丁亥[テイガイ]

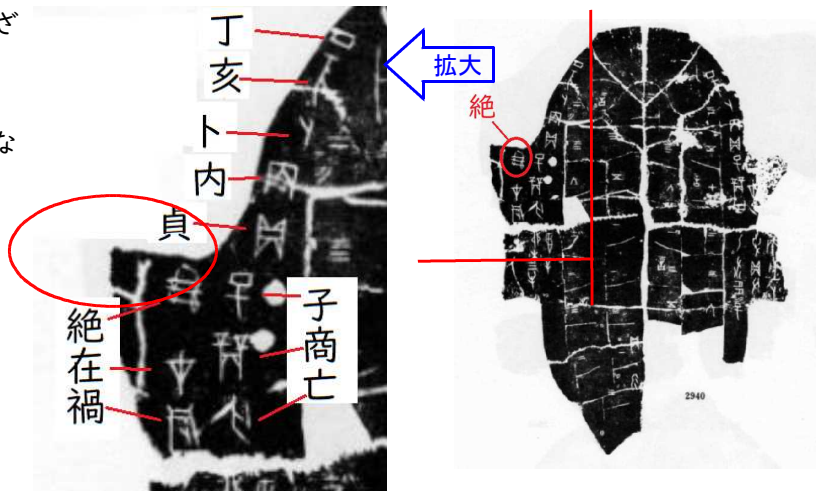
ト[ぼく]して

内貞[と]う。

子商[シショウ]

絶する亡きか。

禍[カ]に在り。



【丁亥】こよみの「ひのとい」。ことし 2021 年もこれ。

【トする】(自動詞) うらなう。

【内】うらないを担当した人物の名。第 1 期賓組というグループにいたようだ。

【貞う】(ほんらいは他動詞) うらなう。【子商】ひとの名。【絶する】凶となるか。

【亡きか】否定の助辞。ないか。【禍】うらなった土地の名。

② 金文 BC10 世紀



西周中期の「匭生簋」[ほうせいき]という青銅器にいこまれていた(鑄造された)字のひとつ。「簋」は、穀物を盛るのに用いられたとされる器で、匭生は、制作者の名。こんにち「格伯簋」とよばれることが多い。西周第 6 代王「恭王」(BC922 年 - BC900 年)のころのものとみられている。中国国家博物館, 故宮博物院, 上海博物館などが所蔵。

③ 金文 BC4 世紀 「中山王 罍 壺」[ちゅうざんおうサクコ]



春秋戦国時代の小国「中山国」[ちゅうざんこく]の王の墓から出土したツボにいこまれていた字のひとつ。この国の第 5 代君主「サク」(在位: BC327 年 - BC313 年)の墓という。このツボは、1974 年から 1978 年にかけておこなわれた河北省石家荘市の靈寿城遺跡の調査で発掘された約 2 万点のなかのひとつ。

④ 楚系簡帛文字 BC5 世紀 「曾侯乙墓竹簡」[そこういつばちくかん]



春秋戦国時代の諸侯国のひとつ曾国の君主「乙」[いつ]の墓から出土した竹簡に書かれていた文字のひとつ。墓葬されたのは BC433 年ごろとみられている。現在の湖北省随州市(武漢の北に位置する)で 1978 年に発掘された。竹簡は、240 枚、6696 字にわたり、葬送に用いられた車馬や武器などの名称が記録されている。

「簡帛文字」[かんはくもじ]とは「竹簡・木簡」や「帛書」[はくしょ]に書かれていた文字のこと。「帛書」は《帛とよばれた絹布に書かれた書》のこと。

⑤ 小篆 BC3 世紀 秦代公式字体



秦の時代に公式字体として統一されたもの。

『説文解字』(100 年)は、つぎのように字体と字源を解説する。

「斷絲也。从糸从刀从卩。」

《糸を断つ。「糸」「刀」「卩」から構成される。》

←『説文解字』掲載の「古い時代の文字」。



「𦉰古文絶。象不連體絶二絲。」

《「𦉰」は古文の絶。糸の本体を連綿せず、ふたつの糸に断つようすにかたどる。》

⑥ 隷書 3 世紀 魏封 孔羨碑 [ぎほう こうせんひ]



三国時代の華北を支配した魏の時代、220 年に、孔子の子孫にあたるという孔羨 [こうせん] を宗聖侯に封爵 [ほうしゃく] して、孔子廟を修理させたことを述べた碑で、隷書で書かれている碑文のなかの一字。「宗聖侯」とは、孔子の嫡流の子孫が世襲した封爵名。

⑦ 楷書 6 世紀



隋から唐にかけて活躍した書家・欧陽詢 [おうようじゅん] (557 ~ 641) の書。[九成宮醴泉銘](#) (632 年)。六朝時代の王羲之の書風を継承し、楷書の完成した形として後世に受け継がれた。(リンク先: Wikipedia 中国語版)

欧陽詢の字様は、11 世紀宋代に、南宋・浙江地方の刊本の印刷書体にとりいれられた。

⑧ 楷書 7 世紀 初唐書写標準字体



褚遂良 [ちょ すいりょう] (596 年 ~ 658 年) の書。[孟法師碑](#) (642 年)。細身の清らかな書体が特徴。⑦⑧の「糸+ケの 2 画目が折れ+巳」が「絶」の「初唐書写標準字体」だったといってよい。遣唐使を通じて日本にもつたわっている。奈良時代に伝来した仏教經典の写本には、この字体のものがみられる。

(リンク先: 百度百科 Baidu Baike)

⑨ 楷書 8 世紀 絶 開成石經標準字体 (唐代の公式字体)



盛唐の時代の顔真卿 [がんしんけい] (709 年 ~ 785 年) の書。[顔勤礼碑](#) (779 年)。豊かで雄渾な書体となる。楷書は 9 世紀の唐代に完成された。科挙における「楷書」の典拠として、筆で漢字を書く際の標準字体がこれだった。(次ページ参照)

8, 9 世紀の書家の楷書や行書は、大半が⑨のように書いている。

(リンク先: 百度百科 Baidu Baike)

⑩ 楷書 8 世紀 絶 康熙字典体の原型



顔真卿 [がんしんけい] (709 年 ~ 785 年) の書。[李玄靖碑](#) (777 年)。おそらく楷書で「刀+巴」と「絶」を書いたはじまりのように見える。

(リンク先: 百度百科 Baidu Baike)

顔真卿のこの字様は、11 世紀宋代に、南宋・四川地方の刊本の印刷書体にとりいれられ、宋朝体として確立された。これが明朝体にうけつながら、18 世紀の「康熙字典」体となっていった。

「絶」が唐代の標準字体だった

開成石経標準字体

唐の時代における字体の標準化の集大成は、『開成石経』によってなされます。

837年に完成した『開成石経』は、儒教の12經典（周易・尚書・毛詩・儀礼・周礼・礼記・春秋左氏伝・春秋穀梁伝・春秋公羊伝・論語・孝経・爾雅）と2つの字書（五経文字・九経字様）を、114個の石碑の両面にほったもので、合計65万字にもおよび「楷書」の標準化がめざされました。唐代の最高学府である長安の国子監に設置されました。科挙を受けるものは、これの拓本をもとに学習しました。



【左図】「開成石経」（周易）。京都大学人文科学研究所拓本画像から。

開成石経標準字体は、日本にも伝来します。江戸時代にいたるまで大半が「絶」と書かれていたことがわかります。



ア)



イ)



ウ)

ア) 寛治二年刊本「成唯識論」巻十（1088年）

イ) 親鸞自筆「教行信証」巻四（1224年）

ウ) 守屋本「薬師功德経」（1412年）



エ)



オ)



カ)

エ) 「日本書紀」巻二，慶長十五年版（1610年）

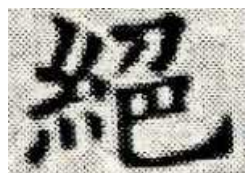
オ) 「日本書紀」巻二，寛文九年版（1669年）

カ) 曲亭馬琴「椿説弓張月」（1807年）

なお科挙受験参考書には、先行して『千禄字書』（顔元孫・著，顔真卿・書，774年）がありました。掲載する「正字」は、約800字で、今回調べたところ「絶」はのっていませんでした。

12世紀南宋のころには「絶」が主流に

一方中国では、「巴」の上に「刀」をおく「康熙字典体」にむかうながれが出てきました。



左図は、南宋の時代1149年に写本された「法蔵和尚伝」の一字です。法蔵（643年 - 712年）は唐代，華嚴宗の第三祖という僧で、その事跡を904年にまとめたのが「法蔵和尚伝」です。それを南宋の時代に写本したので「南宋版法蔵和尚伝」とよばれています。この時代には、ほぼこの字体が定着しました。この写本は、「鳥獣戯画」で有名な京都の高山寺が所蔵しています。

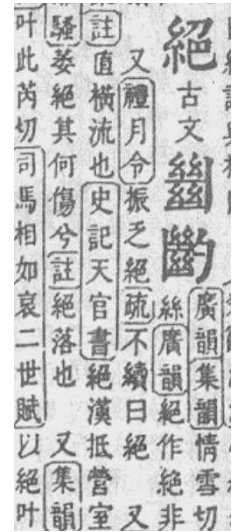
このページの図は、石塚晴通（北海道大学名誉教授）作成の字体資料カード，および日本古典籍くずし字データセット（人文学オープンデータ共同利用センター）を利用しました。

18 世紀清代に「絶」が公式字体に

中国では 11 世紀ごろから木版印刷の技術がすすみ、さかんになります。この過程で顔真卿の字様をもとにした印刷用書体の宋朝体が登場し、ここで「刀」が右がわ上部にくる字体が定着することになりました。これが『康熙字典』にうけつがれます。

『康熙字典』[こうきじてん] は、清の康熙帝 [こうきてい] の時に編さんされた字書で、1716 年に完成しました。【右図】

全 42 巻、収録文字数約 4 万 9000 字で、字ごとに古文（秦代に創始された小篆以前の文字）などをあげ、音韻と字義を明らかにしています。木版印刷でしたが、ここでかかげた明朝体の字体をこんにち「康熙字典体」とよんでいます。



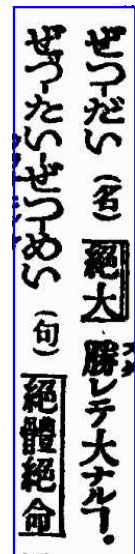
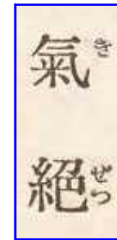
19 世紀日本でも「絶」が活版印刷字体に

「康熙字典」は、日本には江戸時代の 1780 年（安永 9 年）に木版で翻刻されて登場します。以降、いくつもの版が出版されます。

19 世紀末には、西洋式の活版印刷が主流になると、活字のほとんどが康熙字典体でつくられるようになりました。

こうしたことから江戸時代までの木版印刷にあった「絶」がつかわれなくなり、康熙字典体が日本でも普及していきます。

新聞や出版物の活字の大半は康熙字典体を取り、これは、1949 年 4 月 28 日に「当用漢字字体表」で「絶」が採用されるまで、約 100 年間つづきました。



【上右】大槻文彦『言海』1889 年

【上中】大和田建樹『日本大辞典』1896 年

【上左】神谷鶴伴『みなし児』（少女小説）1910 年

「当用漢字字体表」
以前の新聞から

①
拒絶

②
絶對

③
隔絶

④
絶縁

⑤
根絶

⑥
根絶

①東京朝日新聞 1915.12.13, ②大阪毎日新聞 1938.1.13, ③ 国民新聞 1939.6.20,

④東京日日新聞 1939.7.20, ⑤産業経済新聞 1944.3.4, ⑥読売報知新聞 1944.3.25

国定読本は「絶」をとった

①



②



③



明朝体活字が康熙字典体をとった一方で、出版物のなかには、筆写の伝統にそって「絶」をとるケースもすくなくありませんでした。とくに年少者向けの出版物や、左図の①③にみられる宋朝体活字には「絶」がみられました。

①ホストル『小学生理書』12巻，1879年

②直村典『小学用物理器械使用法略説』文部省編輯局，1886年

③福井春峰『女子手紙の文』1910年

④『高等小学読本』八（国定読本第1期）第十課「洋學の發達」（P.48），日本書籍翻刻發行，1910年（国立国語研究所蔵）

④

こうした実態を反映して、**国定読本**も「絶」をつかうようになりました。

1903年，最初の国定教科書（第1期）が刊行されます。今回あつたかぎりでは④のように「絶」の字体をとっています。



教科書と一般の明朝体とで字体がちがうのは、「絶」だけではありませんでした。

しかも国定読本のなかには、翻刻発行する出版社や印刷所によって、ことなる字体をつかうものがありました。

そこで，1919年文部省は，上田万年や保科孝一，諸橋轍次らの協力を得て2600あまりの字を対象に『漢字整理案』を公表しました。

同案の「凡例」の一部と，標準が「絶」であることをしめす部分を右にかかげます。

「絶」について康熙字典体をとらなかったのは，手書きで，つくりの部分に「色」と書くことが，ひろく社会に浸透していたからです。書きやすさを重視したことがわかります。

これにより，バラツキがあつた国定読本の字体が整理されていくようになります。



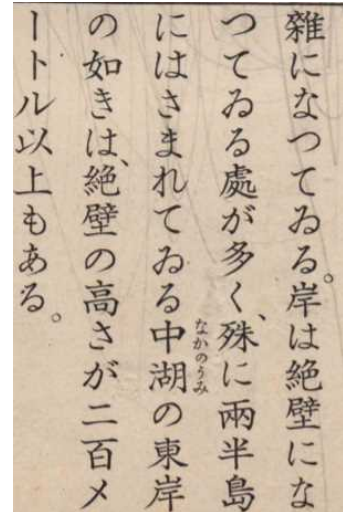
凡例
(一) 本案ハ尋常小學校各種教科書ニ使用セル漢字二千六百餘字ニ就キテ字形ノ整理ヲ行ヒ其標準ヲ定メタルモノナリ。
(二) 本案ノ整理方針ハ簡便ヲ主トシ慣用ヲ重シ活字體ト手書體トノ一致ヲ圖ルニ在リ。

1932 年文部省は、教科書体とよばれる「文部省活字」をさだめます。ここで正式に「絶」を採用しました。これは第 4 期『小学国語読本』尋常科用（サクラ読本，1933 年 - 1940 年使用）でつかわれるようになります。

【右図】『尋常小学国語読本』巻十二（国定読本第 4 期）

第十一課「十和田湖」（P.50）東京書籍翻刻発行，1937 年（広島大学図書館蔵）

このように国定読本が「絶」としたので，当用漢字表以前でも，児童生徒は，康熙字典体ではなく，この字体を学びました。



当用漢字表で印刷活字も「絶」を標準にした

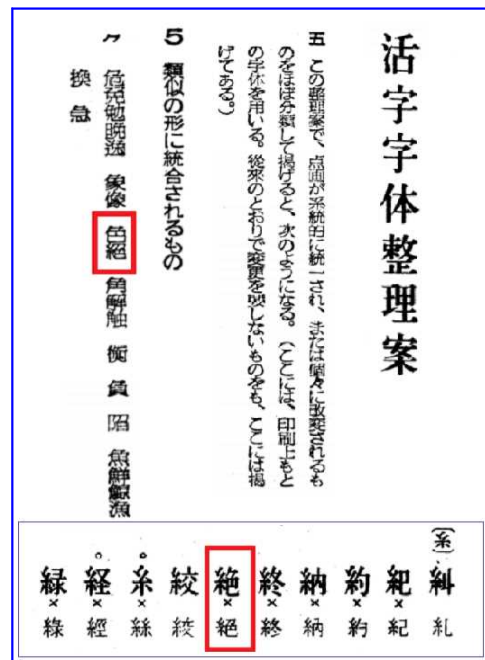
アジア太平洋戦争の反省のうえから，戦後になり，民主主義をめざして，言語改革がすすめられました。1946 年 11 月に「当用漢字表」が内閣告示されます。漢字の乱用をふせぐことを目的に，日常使用する漢字の範囲を定めたものでした。このとき，131 字は「乱」「区」のように簡易字体でしめされました。そして「絶」をふくめた，その他の字については，調査中として，康熙字典体の活字でしめされました。（本資料 P.2 参照）

そして文部省は新聞・印刷・活字製造・タイプライターなどの会社と大蔵省印刷局の関係者をまじえて「活字字体整理に関する協議会」をおき，774 字の一字一字について審議をかさね，1947 年 10 月に新聞や出版物，公用文などの活字の標準をしめす「活字字体整理案」を公表します。そしてひろく社会に検討をよびかけました。

右図は，その一部です。「絶」は類似の「色」に統合するというものでした。

すでにふれたように，学校教育でも「絶」があつかわれていたことから，反対意見はなく，「絶」は 1949 年 4 月に内閣告示された「当用漢字字体表」で正式にしめされました。この表は，字体が明確にわかるように線書き（等線体）でしめされました。（本資料 P.2 参照）

これをもとに，以降，新聞や出版物，公用文用の活字がつくられていきました。



「×」印は教育漢字。「○」印はこのまま決定するというもの。

筆写の習慣と、まなびやすさを重視した当用漢字字体表

前述した「活字字体整理に関する協議会」の審議などから、「当用漢字字体表」が、「絶」を康熙字典体ではなく、「糸＋色」をとりいれた理由がうかがえます。

ひとつは、日本社会における筆写の習慣を重視したとみられます。11 世紀以降、楷書や行書では「糸＋色」で書かれてきた、そして 20 世紀になり教科書にとりいれられ、学校現場でも、そのように指導してきた、これらのことから康熙字典体とくらべて、はるかに書きやすさがあつたと、とらえていたようです。

もうひとつは、字体の選定に、学習の難易を重視していたようです。字体のあやまりない認識をもつことがたいせつだとされ、「鮮明度がつよく、運筆のまぎらわしくない」ことがもとめられました。その結果、すでに「色」が定着しており、字源はことなるが「糸＋色」としたほうが、まなびやすいとみたようです。

それから 70 年たちます。「常用漢字表」もこの字体を採用し、日本社会に定着しました。一部に「康熙字典体が正字だ」とするものがありますが、以上みてきたような歴史的な経緯をふまえない言説だといえます。

中国も「糸＋色」の字体に

当用漢字表の字体の簡易化は、建国後の中華人民共和国で 1956 年に実施された『漢字簡化方案』に反映されました。ここでは「獨」を「独」、「體」を「体」にするなど 514 字が簡体化されました。その後、何段階かの修正をへて 1988 年に発表した『現代漢語常用字表』で常用字 2500 字の字体をしめし、このとき「糸」を 3 画の「纟」、つくりを「色」にした「绝」がしめされました。これがいわゆる「簡化字」（簡体字）というもので、現行の『通用規範漢字表』にうけつがれています。中国も日本同様、康熙字典体をとらなくなったわけです。

日本	中国	台湾	香港	韓国	各国の常用字体の比較
絶 7D76	绝 7EDD	絕 7D55	絕 7D55	絶 7D55	日本「常用漢字表」、中国「通用規範漢字表」、台湾「常用国字」、香港「常用字字形表」、韓国「漢文教育用基礎漢字」

台湾は中華民国政府が伝統を重視し、現在も康熙字典体をもとにした「繁体字」をつかっています。香港は、独自に康熙字典体をもとにした楷書をつかってきましたが、近年、中国政府のしめつけて「簡化字」をつかう傾向があるようです。

韓国は、ハングルが基本で、漢字は漢文の学習などにかぎられます。そこでは日本の漢文学習と同様に康熙字典体をつかっています。

※安岡孝一・安岡素子『日本・中国・台湾・香港・韓国の常用漢字と漢字コード』（京都大学人文科学研究所，2017 年）をもとに構成した。

2. 字源について

《糸を刀で切る》ことから《たちきる》意をあらわすととらえる説が主流。

原義が《糸を刀で切る》とみる点で諸説は一致します。ところが現行字体の「巴」の部分の解釈でわかれます。そこで小学生段階では、「《糸を刀で切る》」という意味がもともとあった」という程度にとどめたほうがよさそうです。

「糸と刀」をくみあわせた甲骨文や金文の段階では、指事文字とか会意文字とみて、まちがいないでしょう。



小篆以降に右がわ下部に「卩」、「𠂔」、「巳」「巴」などとみられる字形がくわわります。

小篆 これについてつぎのような諸説があります。

- A [説文解字]「卩」は《わりふ》。「糸+刀+卩」で《糸を断つ》という意味をもつ。会意文字。
- B [藤堂明保]「𠂔」は、「節」の右下にある[セツ]。《人のすがた》と解してもよい。「糸+刀+𠂔」で、「刀で糸や人を短いふしに切る」ことをしめす。《ふっつりと横に切る》こと。会意文字。
- C [阿辻哲次] 𠂔 [セツ] が音符。「糸+刀+𠂔 [セツ]」で《糸を刀で切る》意を表す。形声文字。
- D [白川静]「色」[ショク] が音符。古くは「𦉳」[ゼツ] に作り、織機にかけた織りかけの糸を切断するかたちで、《糸をたつ》《糸が切れる》の意味となる。形声文字。

竹や木でつくったフダを二つにわり、約束した者同士で一片ずつとどめおいて、後日合わせて見て証拠とするのが「わりふ」(卩)[セツ]です。「節」は、この「卩」から派生したものですが、「絶」とどのような関係があるのかは判然としません。(A)

一方で「𠂔」を部首とする「却・印・即」などの「𠂔」は、《ひとがひざまづく》ことをえがいたとみられています。藤堂明保が《人のすがた》とするのは、これを根拠にしています。(B)

さらに「𠂔」がほんらい《ひざまづく》という意味をもつ漢字であって、古い時代にべつの漢字である「𠂔」と混同され、「𠂔」に《ひとがひざまづく》意味がくわったなどという説もあります。(C)

白川静が「色」を音符とするのは、「絶妙」「絶世」などのコトバが「艶」とともに「色系」の意味があるからだというのですが、根拠のない説といえます。(D)

絶

これら以外にも、小篆や隸書から「紀+刀」で《糸を刀で切る》をあらわしたと仮説することもできます。

隸書 隸書の右がわ下部にみられる「巳」[シ]は、近年では《胎児》をかたどったとする説が主流になっていますが、これと混同されやすいのが「己」[コ]です。先端を引き出した糸すじのかたちにかたどり《糸のはし》、《糸をまきとる道具》をさす象形文字だとする説が優勢だといえます。

その「己」から構成される「紀」[キ]が、もともとは《糸をきちんとまきとる》という意味をもち、《いとぐち》という意味になっていったといえます。

(阿辻哲次『角川新字源』改訂新版、2017年を再構成)

このように各説をみても、どれもが決定的な説得力をもっていません。

小学生向け学習漢字辞典の字源解説

小学館 例解学習漢字辞典	むかしの字は絶。刀と巴（人）と糸とを合わせて、人が刀で糸をぷつりとたち切ることを表した。
学研プラス 新レインボー 小学漢字辞典	もとの字は「絶」。クは刀がかわったもの。巴は節にふくまれるPと同じで、ひざまずいた人のすがた。おれめや切れめがつくというイメージをとる。P（セツ＝巴。切れめがつく）と刀（かたな）と糸（いと）を合わせた絶は、刀で糸に切れめをつけるようすを図にして、つながっているものをたち切ることをあらわした。
光村教育図書 小学新漢字辞典	旧字体は絶。「糸（いと）」と「刀（かたな）」と「巴（切る）」とを組み合わせた字。糸を刀でたち切ることを表す。
三省堂 例解小学漢字辞典	形声文字。もとの字は「絶」。「巴」は「P」セツの変形で「ゼツ」とかわって読み方をしめしている。「ゼツ」は「きる」意味を持ち、糸を刀できることを表す字。
ベネッセ チャレンジ 小学漢字辞典	形声文字。もとの字は「絶」。糸（いと）と刀（かたな）と巴セツ→ゼツ（Pのかわった形。きる）を合わせた字。刀で糸を「たちきる」という意味を表す。
旺文社 小学漢字新辞典	形声文字。旧字体は絶。意味を示す糸と刀と、音を示すP（セツ・ゼツ。巴は変わった形。たち切る意味）を合わせた字。刀で糸を切る意味。
三省堂 小学漢和辞典 (長沢規矩也)	(小篆の字体をしめして) 糸と刀とP（音「ゼツ」、切るという意味を表す）とを合わせた字。「刀で糸を切る」意味。

「巴」部分の説明を、「わりふ」(P)から「切る」という意味におすびつけているものが多いのですが、これは前述のように確証がありません。

また、現行の市販されている漢字辞典は、どれも康熙字典体を提示して「刀」にふれています。その一方で、長沢規矩也のように小篆をしめすことで康熙字典体にまったく言及しないものもありました。こうしたところは、**文字改革を意識した長沢らしさ**があらわれています。こどもたちのまえに、旧字体をさらさないという長沢の配慮にまなびたいです。

6. 意味の変転

絶の変転状況

赤字は、別ファイル「語釈・語例集」に掲載の語。

① (原義) 系を切る

甲骨文字の段階はト占用語。「凶」の意味。

(基本義)

② たつ (断つ)・たちきる

現代日本語に

断絶する・中絶する
絶食

絶滅・根絶・廃絶

絶句する・気絶する

絶息・絶体絶命・絶版

絶筆・絶望・絶無・途絶

絶え間

A 絶つ・絶ちきる・おしまいにする・やめる
きりはなす・さえぎる・とどめる

A 絶やす・なくする・ほろぼす・きわめる

A 絶える・つきる・とぎれる・なくなる
とだえる・おしまいになる

③ こばむ

A 関係をおしまいにする・ことわる
拒絶する・謝絶・絶交・絶縁

(派生義)

④ 遠く離れている

A' つながりが切れている・へだたる・けわしい

隔絶する・絶海・絶壁

絶対《ならべてくらべるものがない》

絶対に《どういことがあっても、かならず》

⑤ かけはなれてすごい

B ほかとかかけはなれてものすごい

この上なくすぐれている・まさる

このうえない・きわまる

絶好・絶賛・絶景・絶佳・絶頂・絶品・絶妙

絶大・絶世・絶倫・卓絶・絶唱《非常にすぐれた詩歌》

空前絶後

⑥ もっとも

B' はなはだ・きわめて・完全に
ありったけ・とても……

凄絶・壮絶・絶叫《声をかぎりに》

絶唱する《感情をこめて》